

平成28年8月23日

稲作情報 第4号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎気象概況及び生育概況（アメダス宗像より）

平年に比べ、7月1日～8月10日の平均気温は1.2℃高く、降水量は80%と少なく、日照時間は138%と多い状況でした。高温傾向で、出穂が平年より2～3日早まっています。

これからがこめ作りの仕上げの時期です。適切な病害虫・雑草管理や水管理に心がけましょう

1. 水管理

出穂1週間前から登熟前半における水不足は登熟障害を生じやすいので、湛水管理を行ってください。以降落水期までは、根を健全に保つため間断かん水を行いましょ。高温が続く場合は、地温を下げて登熟向上を図るために夜間灌水が効果的です。水尻を止めて夕方から朝にかけて入水し、その後ゆっくりと落水させましょ。

早期落水は登熟不良や品質低下につながりますので、収穫1週間前までは土壌が白乾しないようにしましょ。

2. 病害虫防除

◎出穂期～穂ぞろい期 基幹防除 **必ず実施！**

体系	薬剤名	散布量 (希釈倍数)	備考
粉剤	・ダブルカットバリダK粉剤DL (いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類)	3～4kg / 10a	穂揃期まで
液剤	・ダブルカットバリダフロアブル (いもち病、紋枯病)	1000倍	穂揃期まで
	・キラップジョーカーフロアブル (カメムシ、ウンカ類、コブノメイガ)	1000倍	収穫14日前まで
粒剤	・コラトップスタークル1キロ粒剤 (いもち病、ウンカ、カメムシ類)	1kg / 10a	出穂5日前まで

※粒剤による防除を実施する場合は湛水状態(3cm程)を7日間保ち、落水やかかけ流しをしないでください。

※穂いもちの防除を目的として粒剤を使用する場合は、出穂10～20日前に使用してください。

※葉いもちの多発ほ場では、穂揃期にビーム粉剤DL(3～4kg/10a)または、アチーブMC(2000倍)で防除してください。

◎**品種別出穂期の予想**（6月20日頃田植え・平坦地）

- ★元気つくし・つくしろまん . . . 8月21日頃
- ★ヒノヒカリ . . . 8月28日頃
- ★ツクシホマレ . . . 9月3日頃

・ 出穂期：ほ場内の5割程度の茎で穂先が出た状態の日

◎**穂ぞろい期から7～10日後 基幹防除** **必ず実施!**

対象病害虫：カメムシ類、ウンカ類

体系	薬剤名	散布量 (希釈倍数)	備考
粉剤	・キラップ粉剤DL 又はスタークル粉剤DL	3～4kg / 10a 3kg/10a	収穫14日前まで 収穫7日前まで
液剤	・キラップフロアブル 又はスタークル液剤10	60～200L(2000倍) 60～150L(1000倍)	収穫14日前まで 収穫7日前まで
粒剤	・キラップ粒剤 又はスタークル豆つぶ (穂ぞろい期散布)	3kg / 10a 250g/10a	収穫14日前まで 収穫7日前まで

※：スタークル剤については、ミツバチへの影響を回避するため、必ず開花終了後に散布して下さい。

★農薬を正しく安全に使用しましょう!!

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 水田では止水期間（1週間程度）を遵守
- ④ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ⑤ 防除履歴の正確な記帳